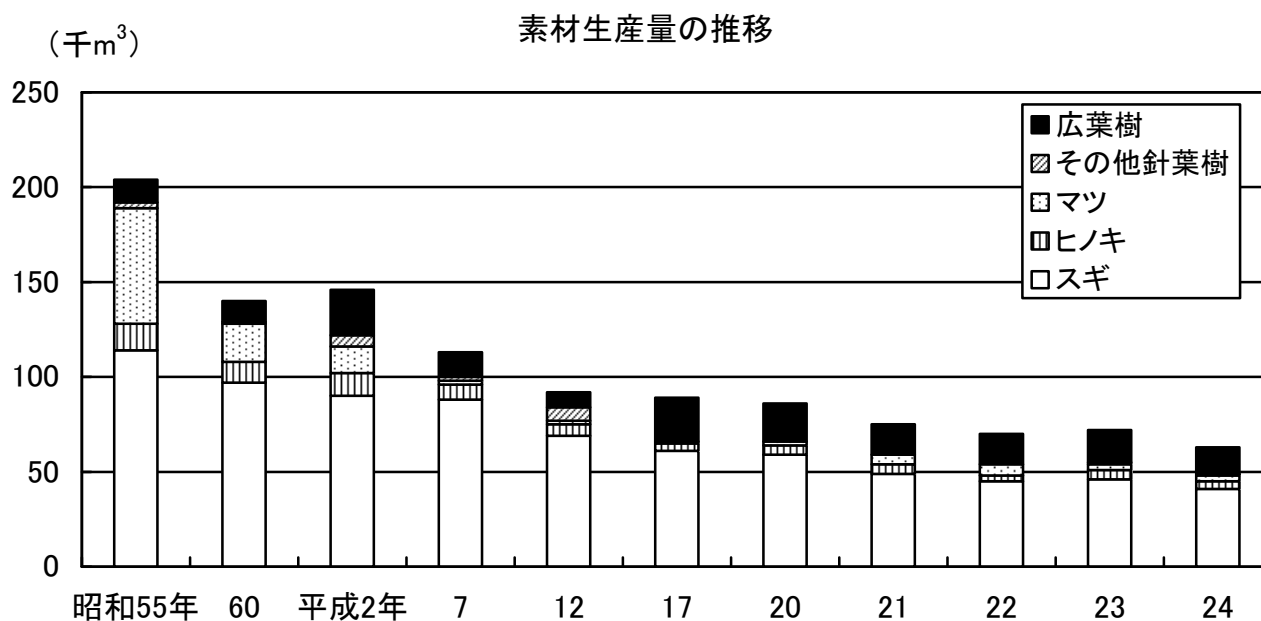
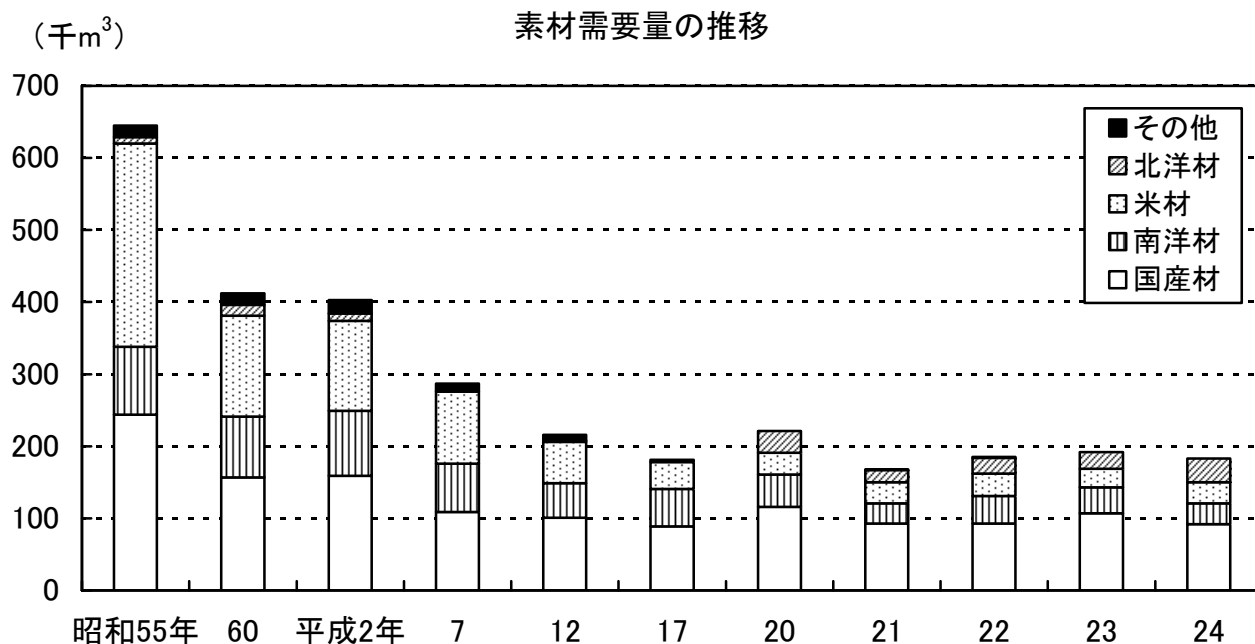


5. 林産物の需給

(1) 木材の需給



平成24年の素材需要量は前年より9千 m^3 減少し183千 m^3 であった。このうち国産材は92千 m^3 、輸入材は91千 m^3 であった。

輸入材のうち、南洋材が32%、米材が32%、北洋材が36%である。

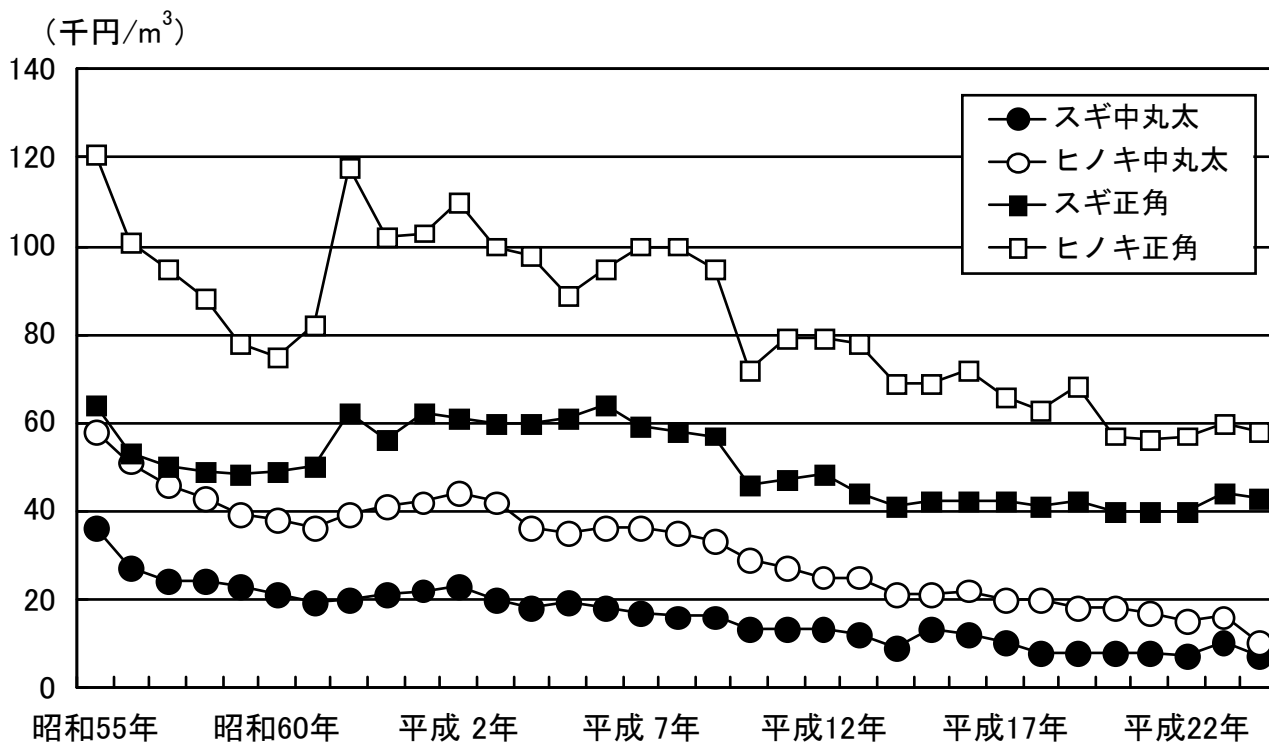
県内素材生産量は、前年より9千 m^3 減少し63千 m^3 で、樹種別ではスギ41千 m^3 、ヒノキ4千 m^3 、マツ3千 m^3 、その他針葉樹1千 m^3 、広葉樹が14千 m^3 となっている。

県内の素材生産を所有形態別にみると、国有林で3千 m^3 、公有林で2千 m^3 、私有林は前年より10千 m^3 減少し、58千 m^3 であった。

県内の製材工場への素材の入荷量は69千 m^3 、製材品出荷量は42千 m^3 となっている。

(2) 木材価格

木材価格の推移



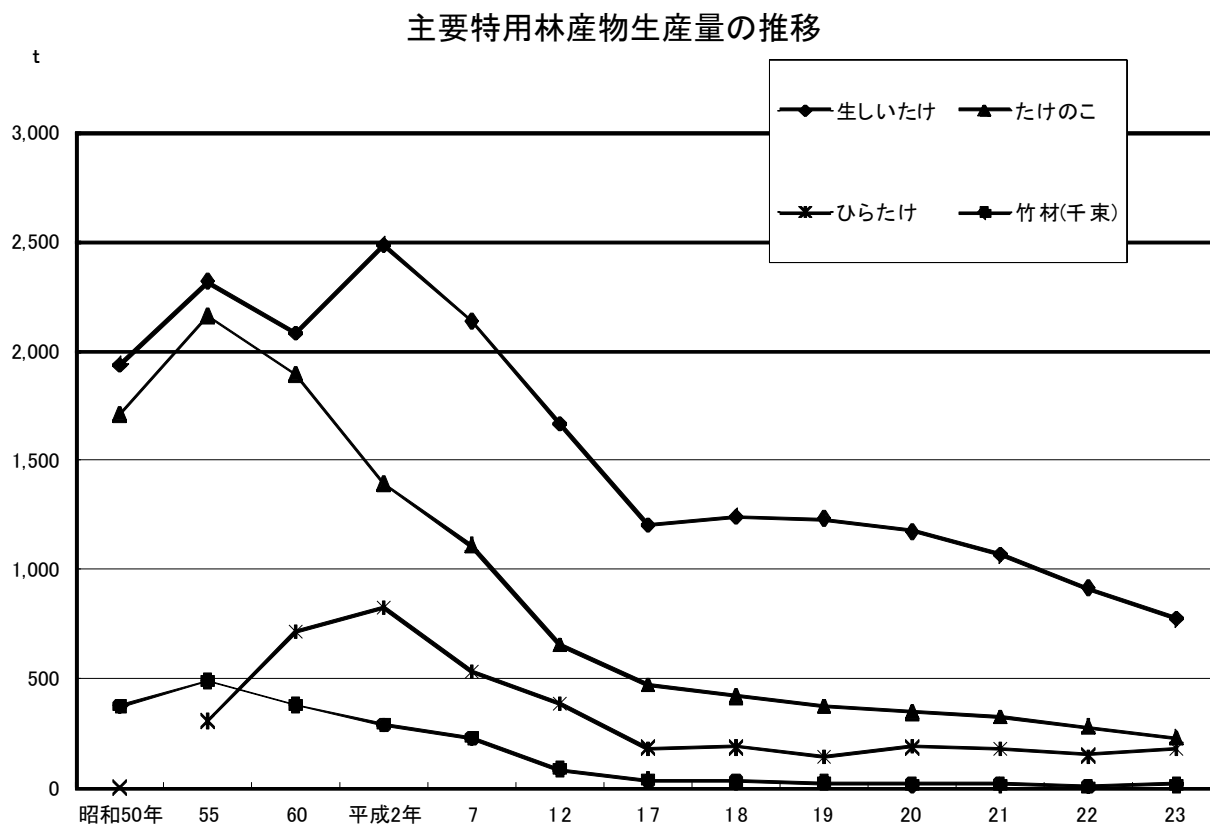
昭和55年をピークに低迷を続けていた木材価格は、昭和62年から平成2年にかけて好調な住宅建設に支えられて緩やかに上昇したものの、平成2年の後半から円高による外材の大量入荷が続き低下した。

平成3年以降も景気の後退により低下傾向が続き、平成7～8年にやや持ち直したものの、平成10年には再び下落、以降低迷している。

平成24年の素材の平均価格は、スギ中丸太が7,292円/m³で前年から2,250円低下、ヒノキ中丸太が10,375円/m³で前年から5,250円低下している。

製材品は、スギ正角(10.5cm角、長さ3.0m)が43,083円/m³で前年から917円低下、ヒノキ正角(10.5cm角、長さ4.0m)が58,250円/m³で1,750円低下している。

(3) 特用林産物の需給



(注) 竹材生産量の単位は千束

本県の特用林産物生産量では生しいたけが最も多く、また、たけのこは全国有数の産地であるが、平成23年3月1日に発生した福島第一原子力発電所の事故の影響により、原木しいたけ（露地栽培）、原木しいたけ（施設栽培）、たけのこの3品目がH24.3.31以前は暫定基準値（500Bq/kg）、H24.4.1以降は基準値（100Bq/kg）を超過し、一部、市町村で出荷制限が出されている。

- ・原木しいたけ（露地栽培）

我孫子市（H23.10.11～）、君津市（H23.10.11～）、流山市（H23.11.18～）、佐倉市（H24.12.22～）、印西市（H24.2.23～）、白井市（H24.4.10～）、千葉市（H24.4.18～）、八千代市（H24.4.18～）、山武市（H24.5.16～）、富津市（H24.11.14～）

- ・原木しいたけ（施設栽培）

山武市（H24.5.16～）、富津市（H24.11.14～）、君津市（H24.12.14～）

- ・たけのこ

木更津市（H24.4.5～）、市原市（H24.4.5～）、我孫子市（H24.4.6～）、栄町（H24.4.6～）、柏市（H24.4.11～）、八千代市（H24.4.11～）、白井市（H24.4.11～）、船橋市（H24.4.12～）、芝山町（H24.4.18～）
 なお、原木しいたけの出荷制限は、露地栽培と施設栽培で区分されているが、統計上の区分はない。